

関係者への広報を通じて

広報 / 専門家協力小委員会担当理事 池田

順番だから今年からあんだだよ」とグル - プの代議員を務めることになった。出来ることなら「何もしないで勝手気ままに過ごしたい、そして時期を見てAAに再度挑戦！」という夢を抱いて止むを得ずAAに通いだしていた身にとっては「うとうしい役回りだけど適当にやるさ」という思いだけが強かったが、年に数回は東京で開かれる集会に行かなければいけないということが気掛かりだった。

会社の仕事で電車出張する時は、いつの頃からか「乗る前に車中で飲むアルコールを買ってから乗り込む」ことが習慣となっていたことが頭をよぎった。

飲まない生活が始まり出したころから電車に乗ることを極力避けていたし、時間的にも肉体的にも多少きつくて「車での移動」を前提に考えて行動するパターンが出来上がっていたこともあり「嫌だな」という思いが湧いてきた。

何回目かの集会で、その集会が成立するのかしないのかという定足数の事で紛糾した時、ある仲間から「皆さん方は何のためにここに集まっているのか、自分達がやるべき事は何か、を考えたらどうなんだ。俺は地元ではアル中の

(本名)で関係者の方とコンタクトを取ってメッセ - ジを運んでいるよ」との発言があった。

そこに居て時間だけが過ぎれば良い、自分には関係ない事と思っていたが、この仲間の発言はショックだった。AAに囚われていた頃に周りから聞かされる言葉がすべて自分を非難する言葉だったことから、いつの頃からかあらゆる言葉を聞き流すことが習慣化されてしまっていた。その状態から「AAだけが扱けた体だけが残っていた」ことに気付かされた。

あるイベントの企画に携わる機会があり打ち合わせ会で仲間と雑談していた時に「ニックネームを名乗って関係者の方へ面会を求めたら怪訝な顔をされ断られてしまったよ」と仲間が話してくれた。この仲間の経験と前述の「俺は地元ではアル中の...」の仲間の話が重ね合わされてサ - ビスという先のに少しばかり関心を持ち始めていた私には大変に貴重なメッセ - シトとなった。

一人のアル中がAAを止めたからといって大きな仕事をしたように思わない「思い上がるなよ」と戒められたように感じた。命と引き換えにしてまでも飲みたい？とまでは思わなかったが飲み続けていけば、好むと好まざるに関わらず結果的にはそうなるという事は自明の理である。その当時私のお世話になった病院から退院した人が「半年で8人亡くなった」ことが証明している。

グル - プのミーティング場が増えたのをきっかけにして作り直したミーティング場の案内地図と若干のAA広報資料を持って、地域の県精神保健センター(現在の精神保健福祉センター)へ会社から半日休暇をもらって出掛けた。

振り返るまでもなく赤面の至りだが事前に電話予約をすることもしなかった。「留守ということはないだろう 誰か居るだろう」という思いと「保健センター - なん



だからAAの情報は必要な筈だ」という勝手な思い上がった気持ちだけが先走っていた。

「ニックネームを名乗って...」の仲間の話が頭の中にこびりついていたので、面会を求める時に、会社の名詞を使用しその裏に自宅の住所電話番号を記入して差し出した。運良く担当の方が在席されており2名の保健婦さんが気持ち良く話を聞いてくれ、ご自分たちがD会を県内に広めていく手助けをしたことなどの話もしてくれた(アルコール問題に取り組んでいる県内で五指に入る保健婦さんだった)。

2時間近い時間を割いていただいた話し合いが済んで帰る時に「AAというのは、名前を明かさないのでないの？」と聞かれた。

「この人達は分かっていない！」という思いが込み上げてくるとともに、「自分のやり方はよかったのかな？」ということも感じさせてくれる言葉だった。

首都圏からは100km程離れており近隣の県と比較してもAAの灯が点ったのも一番遅い地域だからこんなもんか、ということと共に「アル中がアルコールを止めたくらいでいい気になるな！」とどやされたように思った。有り難かった。

自分一人なら耐えられるであろうアル中というレッテルが、家族や係累に及ぼす影響を考えたら「独断専行で事を運ぶ」ことが如何に危険な事であるかは、昔の事を振り返ってみるまでもなく分かっていたことでもあります。飲んでいないアル中を得意になってやっていた訳です。

今年も北の大地、北海道で開催されたラウンド・アップに参加することができました。3年続けて行くことができました。自分の車をフェリ - で運んでもらって...ということも相変わらずやっております。今年も行こうと決めた時から「飛行機や電車を利用すること」が頭の中に浮かんできません。

今年のラウンド・アップでは、関係者の熱意 関心の高さという先のを強く感じました。参加されていた保健婦さんやケ - スワ - カ - の方々から次のような話を聞かせていただきました。

「自分達が何とか止めさせよう手を変え品を変えて頑張ってみただけと止めることが出来なかったお酒が、AAに通い出した患者さんの中から止め始めた人が出てきた。AAというのは何だろう? そんな興味があってこの集まりに参加しました」と異口同音に話されていたのが印象的でした。

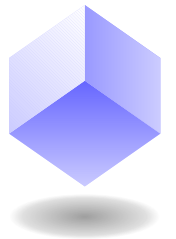
来年はどうなるだろう という期待やら希望を感じて帰ってきました。

AAの目的が「まだ苦しんでいるアルコールにメッセ - ジを届けること」にあって、この目的を達成するためにAAのあらゆるシステムが機能していると言っても過言ではないと思います。

しかしながら、このためにはアルコール医療 行政に携わっておられる関係者の方々に「AAを知っていただく」ことから始める必要があると痛感しております。

地方でのAAの知名度はまだ不足しております。行き届いているとはいえません。メンバーを初めとしてAAにご理解ある関係者の方々のお力をお借りしながら、「AAを知っていただく」ための努力がますます求められていると思います。

平成11年1月



AA出版案内 新刊

J S O内AA日本出版局

- 今こそ充実した 生き方を -



A六版 五〇〇円

高齢でAAメンバーになった人たちの体験をつづる。六十歳を越えてからアルコール依存(アルコール依存症)の問題に直面し、AAにつながった人たちが九名の体験が語られています。そこで語られている経験と力と希望は、年齢を超え、国境を越えて、心に染み込んでくるものばかりです。

ご連絡いただければ、AA出版物一覧をファクスでお知らせいたします。ご利用下さい。

- 代議員 -



リーフレット式 一〇〇円

AAで一番大事な役割がもしも将来を、そしてAA全体の将来を確実に守ることになる。代議員に選ばれたら、どういった役割や責任があるのか、また、グループが代議員を選出する際、どういふことを考慮すべきなのか...。ぜひ参考にしてみてください。

BOX 916の案内



紙面によるAAミーティングとして、AAメンバーまた関係者の方々長く愛読されています。

AAの仲間たちが「過去どのようであったか、何が起きたのか、今どのようであるのか」を、赤裸々に語られています。

また、ジョイントというコーナーを設け、関係者の方々にも寄稿していただいています。

毎月未発行
A5版 28頁 250円(送料別)
年間購読 4,080円(送料共)

J S Oの業務時間 月曜日から金曜日 午前10時から午後6時(祝祭日は休み)

ホームページアドレス

☆関係する機関などで、この「専門家向けニュースレター」が届いていない場合は、どうぞ送付先を御連絡下さい。

<http://www4.justnet.ne.jp/~serenity/>